

〈史料紹介〉
昭和六十年 山口県下の陸海軍部隊

戸 島 昭

戦後五十年——半世紀という歲月の節目は、あの忌まわしい戦争にかかわった全ての日本人に、さまざまな感慨をもたらしているようだ。これを機に、あの戦争を過去のものとして冷静に振り返り、ただ単に被害者としての立場からだけでなく、重苦しい加害者としての立場からも、その見聞を語り始める人が多くなっている。とりわけ口の重かった男性も、日本の戦争責任に目を向けて、後に続く世代のものたちに、語り継いで置かなければならないという気持ちが強くなっているように思われる。

従って、このような今こそが、戦争を経験しなかった世代のものにとって、高齢者となった人々の戦争体験を聞き継ぐ最後の機会となっている。ようやく日本人も、戦

後半世紀を隔てて、あの戦争を冷静に振り返り、語り継ぎ、聞き継ぎ、書き継ぐことが可能になったと言える。ところで、戦争体験を聞き継ぐ側の世代にとって、最も重要な準備は、具体的な予備知識の蓄積である。それを欠いていては、どれほど無理が進まないだろう。聞き継がなければならぬ事実を、具体的に準備しているかないか、それが最も重要なことである。その意味で、今ほど戦争体験を聞き出す側の力量が問われている時はないのである。

従来、山口県内の市町村史誌の戦争記述は、とかくアメリカ軍の空襲などによる地域内の被害に終始したものが多く、日本軍が張り巡らしていた軍備体制について、

明確に記述したものが少ない。その主な原因は、生々しい戦時体制に触れにくかった執筆者心理に加えて、国の陸軍や海軍が進めた軍拡の史料が、地方の県庁や市町村役場の記録中に残りにくい性格のものであったことや、連合国軍の進駐に先だって焼却処分されたことなどで、それぞれの地域史料が欠落している状況などによるが、山口県の場合、旧日本軍の軍備体制を知る手がかりがないわけではない。

その記録は、敗戦による日本軍隊の解体と連合国軍の進駐に伴い、山口県が内政部に調査課を設置して、「特殊物件」として調査・掌握し、市町村や民間団体に放出する事務を担当したことによって、間接的に残されている。とりわけ、山口県の場合、地理的な位置の重要性から、旧陸海軍の部隊と施設が多く配置されており、岩国・光・徳山・防府に大きな燃料廠や工廠があったことや、そのほか「大小三〇〇余り」の部隊と付属施設が集中したことから、そこに付属する物資も多量に残っていたという。

重要な記録であるが、その前提となった戦時中の軍備体制を把握する上でも、無二の史料となっており、戦中期と戦後期の研究には、丹念な調査が必要であろう。

すなわち、その記事中、「一、特殊物件処理一般状況」の「イ、県内の主要部隊の配置状況」として、本県には地域的に軍の施設多く、特に岩国、光、徳山、防府を中心とした地点に燃料廠或は工廠等があり、之等に所属する物資は極めて多量であった

岩国陸軍燃料廠	岩国市
第十一海軍航空廠岩国支廠	同
光海軍航空廠	光市
徳山第三海軍燃料廠	徳山市
陸軍燃料廠防府工場	防府市
陸軍製絨廠防府出張所	防府市

（別図参照）

と記述し、「八、添付書類」の「イ、地図」として、

昭和六戦時山口県下の陸海軍部隊（戸島）

そのために、山口県は、昭和二三年（一九四八）七月、調査課の廃止に際して、参議院決算委員会の特殊物件処理状況視察を受けることになり、調査課の仕事を受け継いだ経済部商工課の手によって、視察綱目に従った調査をまとめ上げているのである。

この山口県文書館が所蔵する「昭和二十三年七月・参議院特殊物件視察調査書・商工課」（県庁戦後A商工部一七番）によって、山口県内に配置された旧陸海軍の主要部隊の位置が明らかにされており、これまで不明瞭であった部隊名や施設名を正確に押えることが可能である。それらを活用すれば、戦時体験者は、駐屯部隊の正式名称のあいまいさから、伝えにくかった地域の見聞を、きちんと語り継ぐことができるようになるだろうし、戦後世代の者は、きちんと聞き継ぐことも可能になるだろう。もちろん、この「参議院特殊物件視察調査書」は、戦後処理事務の一環として、山口県内政部調査課が残した「特殊物件原議台帳」などとともに、戦後の経済復興史上の

旧陸海軍部隊所在地一覧図（史料A）
を、「カ、旧陸海軍部隊名簿」として、
旧陸海軍部隊名簿（史料B）
を掲げている。

ただし、「旧陸海軍部隊所在地一覧図」（史料A）中の部隊名と「旧陸海軍部隊名簿」（史料B）中の部隊名は、ほぼ一致しているものの、若干の相違が見いだされる。

また、これらの部隊名は、「主要部隊の配置」と説明されているように、戦時中に山口県内に所在した全てではなく、これ以外にも、日本海に面した六連島や川尻岬には防備隊が存在し、蓋井島や角島などには砲台があり、大浦には水上基地があったことなど、地元民の間ではよく知られている事実なので、様々な払い下げ物件の分析とともに、現地での聞き取り調査を実施すれば、山口県下の戦時体制の記録化は、確実に進捗する筈である。

以下、「参議院特殊物件視察調査書」中の「旧陸海軍部隊所在地一覧図」と「旧陸海軍部隊名簿」を紹介する。

陸 軍

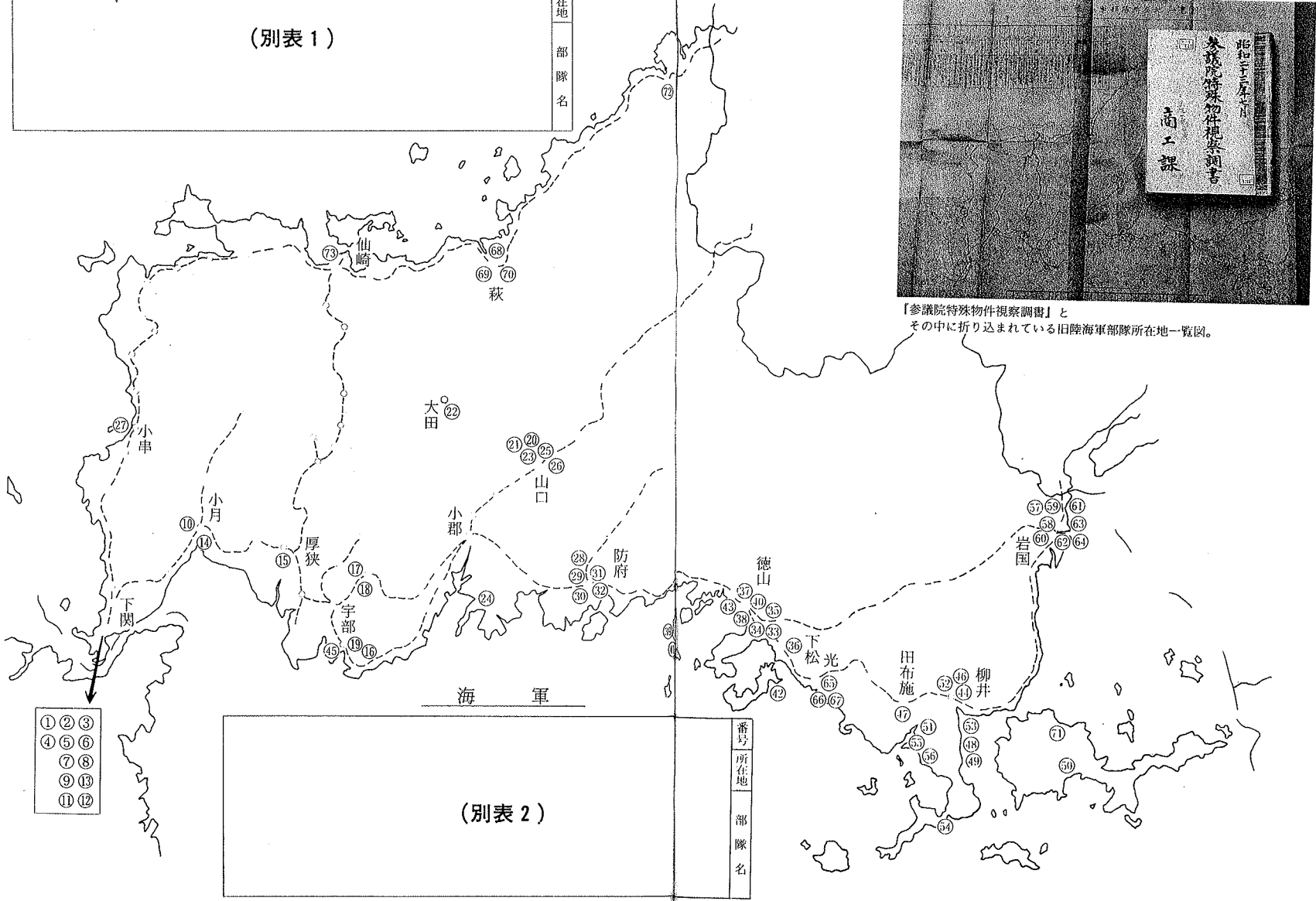
旧陸 海軍部隊所在地一覧図

(別表1)

番号
所在地
部隊名

Table with 3 columns: 番号, 所在地, 部隊名. The table content is blank.

昭和六戦時山口県下の陸海軍部隊 (戸島)



【参議院特殊物件視察調書】と
その中に折り込まれている旧陸海軍部隊所在地一覧図。

〔史料A〕

昭和六戦時山口県下の陸海軍部隊 (戸島)

(別表2)

番号
所在地
部隊名

Table with 3 columns: 番号, 所在地, 部隊名. The table content is blank.

(別表1) 陸軍

番号	所在地	部 隊 名
1	下関	第十一野戦船舶廠
2	同	船舶通信第五大隊
3	同	下関要塞司令部
4	同	陸軍運輸部
5	同	陸軍築城本部
6	同	下関重砲兵連隊補充隊
7	同	下関高射砲第一三三連隊
8	同	下関要塞重砲兵連隊
9	同	福岡陸軍需品廠下関集積所
10	同(小月)	陸軍第一二飛行師団
13	同	下関陸軍病院
14	同(小月)	同 小月分院
15	厚狭	大阪陸軍需品廠広島出張所厚狭分所
16	宇部	広島陸軍兵器補給廠吉田常駐班
17	厚東村	大阪陸軍航空補給廠福岡支廠厚東出張所

(別表2) 海軍

番号	所在地	部 隊 名
11	下関	下関海軍防備隊
12	同	呉海軍施設部下関出張所
19	宇部	呉海軍工廠宇部分工場
31	防府	防府海軍通信学校
32	同	海軍兵学校防府分校
37	徳山	徳山防備隊
38	同	徳山警備隊
39	大津島	呉海軍工廠大津島分工場
40	徳山	呉海軍施設部徳山出張所
41	大津島	光嵐部隊大津島分遣隊
42	下松市 笠戸島	笠戸嵐部隊
43	徳山	徳山第三海軍燃料廠
51	平生	呉海軍施設部平生出張所
52	柳井	呉海軍施設部柳井集積所
53	熊毛郡 阿月町	呉海軍需品部阿月集積所

18	同	大阪陸軍兵器補給廠福岡支廠厚東出張所
20	山口	山口連隊区司令部
21	同	中国第一〇部隊
22	大田町	中国軍管区経理部大田廠舎
23	山口	山口地区憲兵隊
24	秋穂町	船舶工兵第一連隊補充隊
25	山口	第二三一師団
26	同	山口陸軍病院
27	小串	広島第二陸軍病院小串分院
28	防府	大阪陸軍需品廠広島出張所防府集積所
29	同	陸軍製絨廠防府工場
30	同	広島陸軍燃料廠防府出張所
33	徳山(徳彦)	陸軍機動輸送隊補充隊
34	同(〃)	陸軍海上駆逐隊補充隊
35	同(〃)	広島第一陸軍病院櫛ヶ浜分院
36	下松	大阪陸軍造兵廠中国出張所下松監督班
44	柳井	大阪陸軍需品廠柳井集積所

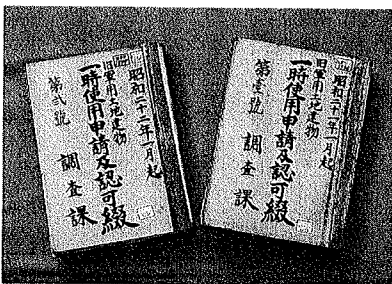
54	同	呉海軍需品部長島集積所
55	同 上関村	平生嵐部隊
56	同 佐賀村	海軍潜水学校柳井分校
60	岩国	海軍兵学校岩国分校
61	同	呉海軍施設部岩国出張所
62	同	内海海軍航空隊岩国基地隊
63	同	第十一海軍航空廠岩国支廠
64	同	岩国海軍病院
65	光	光嵐部隊
66	同	光海軍工廠
67	同	呉海軍施設部光地方事務所
71	大島郡 久賀町	海軍兵学校久賀分校
73	仙崎町	海軍武官府仙崎監督事務所
45	宇部市	大楠機昇学校

46	同	黒田部隊	大阪陸軍兵器補廠福岡支廠田布施出張所
47	田布施	熊毛郡	船舶工兵第六連隊補充隊
48	伊保庄村	同	広島第一陸軍病院柳井分院
49	大島郡	同	広島陸軍兵器補給廠大島分廠
50	安下庄町	同	大阪陸軍需品廠広島出張所岩国集積所
57	岩国	同	大阪陸軍航空補給廠福岡支廠岩国出張所
58	同	同	岩国陸軍燃料廠
59	同	同	第一船舶輸送司令部萩出張所
68	萩	同	第十一野戦船舶廠萩支廠
69	同	同	大阪陸軍需品廠広島出張所萩工場
70	同	同	第十一野戦船舶廠須佐支廠
72	須佐町	同	第十一野戦船舶廠須佐支廠



関連する「特殊物件原議台帳」
(県庁戦後A総務1468～1471番)

関連する「旧軍用土地建物一時
使用申請及認可綴」
(県庁戦後A総務1506～1407番)



〔資料B〕

旧陸海軍部隊名簿

陸軍之部		海軍之部	
部隊名	所在地	部隊名	所在地
(20)山口連隊区司令部	山口市	山口地方海軍人事部	山口市
(23)山口地区憲兵隊	同		
中国軍管区歩兵第三補充隊	同		
(25)第二三一師団(大國部隊)	同		
(26)山口陸軍病院	同		
西部軍管区経理部	下関市	(11)下関海軍防備隊	下関市
(2)下関陸軍船舶通信第五大隊	同	(12)呉海軍施設部下関地方事務所	同
(1)第十一野戦船舶廠下関支廠	同		
(8)下関陸軍重砲兵第七四連隊	下関市		
(3)下関要塞司令部	同		
(6)下関陸軍重砲兵連隊(宗部隊)	同		
(7)下関陸軍高射砲第一三三連隊	同		
(10)第十二飛行師団司令部	下関市 小月町		

小月陸軍飛行場監視隊	同
(14) 下関陸軍病院小月分院	同
(13) 下関陸軍病院	同
(27) 広島第二陸軍病院小串分院	下関市 豊浦郡 小串町
福岡陸軍糧秣廠門司出張所下関集積所	下関市
大阪陸軍需品支廠広島出張所小月工場	下関市 小月町
(9) 福岡陸軍需品支廠門司出張所下関集積所	下関市
(4) 陸軍運輸部下関支部	同
(5) 陸軍築城本部下関出張所	同
(16) 広島陸軍兵器補給廠吉田常駐班	宇部市
広島陸軍兵器補給廠大嶺常駐班	厚狭郡 大嶺町
(18) 大阪陸軍兵器補給廠福岡支廠厚東出張所	厚狭郡 厚東村
(15) 大阪陸軍需品支廠広島出張所厚狭分所	厚狭郡 厚狭町
(17) 大阪陸軍航空補給所福岡支所厚東出張所	厚狭郡 厚東村
防府陸軍飛行場監視隊	防府市
(29) 陸軍製絨廠防府工場	同
(30) 広島陸軍燃料廠防府出張所	同

(19) 呉海軍工廠宇部分工場	宇部市
呉海軍施設部宇部派遣隊	同
(31) 防府海軍通信学校	防府市
(32) 海軍兵学校防府分校	同

(28) 大阪陸軍需品廠広島出張所防府集積所	防府市
(24) 秋穂陸軍船舶工兵第一連隊	吉敷郡 秋穂町
(33) 徳山陸軍機動輸送隊	徳山市 柳ヶ浜町
(34) 徳山陸軍海上駆逐隊	同
(35) 広島第一陸軍病院柳ヶ浜分院	同
(36) 大阪陸軍造兵廠中国出張所下松監督班	下松市
呉海軍運輸部徳山支部	(徳山市脱カ)
(22) 中国軍管区経理部大田廠舎	美祢郡 大田町
(48) 柳井陸軍船舶工兵第六連隊	熊毛郡 伊保庄村

(43) 徳山海軍第三燃料廠	徳山市
(37) 徳山海軍防備隊	同
(38) 徳山海軍警備隊	同
(41) 海軍風部隊大津島分遣隊	同
(39) 呉海軍工廠大津島分工場	同
呉海軍施設部柳ヶ浜大島集積所	同
呉海軍施設部大津島分遣隊	同
(40) 呉海軍施設部徳山出張所	(同脱カ)
呉海軍需部徳山支部	(同脱カ)
海軍艦政本部日立笠戸工場	下松市
(42) 笠戸海軍風部隊	同
(66) 光海軍工廠	光市
(65) 光海軍風部隊	同
(67) 呉海軍施設部光地方事務所	同
(56) 海軍潜水学校柳井分校	熊毛郡 佐賀村

(49) 戸島第一陸軍病院柳井分院	同	(55) 平生海軍嵐部隊	熊毛郡
(44) 大阪陸軍需品廠戸島出張所柳井集積所	玖珂郡 柳井町	(71) 海軍兵学校久賀分校	大島郡 平生町
(47) 大阪陸軍兵器補給廠福岡支廠田布施出張所	熊毛郡 田布施町	(52) 呉海軍施設部柳井集積所	久賀町
戸島陸軍兵器補給廠柳井港常駐班	柳井町	呉海軍運輸部柳井支部	柳井町
(50) 戸島陸軍兵器補給廠大島分廠	大島郡 安下庄町	(53) 呉海軍需部阿月集積所	熊毛郡 阿月町
(58) 大阪陸軍航空補給廠福岡支廠岩国出張所	岩国市	(54) 呉海軍需部長島集積所	熊毛郡 上関村
(59) 岩国陸軍燃料廠	同	(51) 呉海軍施設部平生出張所	熊毛郡 平生町
戸島陸軍被服補給廠岩国作業所	同	(62) 内海海軍航空隊岩国基地隊	岩国市
大阪陸軍需品廠戸島出張所玖珂工場	玖珂町	(63) 第十一海軍航空廠岩国支廠	同
大阪陸軍兵器補給廠福岡支廠岩国出張所	岩国市	(60) 海軍兵学校岩国分校	同
(72) 第十一野戦船舶廠須佐支廠	阿武郡 須佐町	(61) 呉海軍施設部岩国地方事務所	同
(68) 第一船舶輸送司令部萩出張所	萩市	(64) 岩国海軍病院	同
(69) 第十一野戦船舶廠萩支廠	同	(73) 海軍武官府仙崎監督事ム所	仙崎町
		仙崎港湾海軍警備隊	同

※部隊名の上の()数字は、筆者が「旧陸海軍部隊所在地一覧図」(史料A)中の番号を示したものの。